

短報

## 教育学部カヌー実習における新たな試みと考察

山下浩之<sup>1</sup>・太田 謙<sup>2</sup>・松尾太郎<sup>2</sup>・正木智美<sup>2</sup>・西村直樹<sup>2</sup>

A new attempt and discussion in canoeing practice at Faculty of Education

Hiroyuki YAMASHITA<sup>1</sup>, Ken OHTA<sup>2</sup>, Taro MATSUO<sup>2</sup>, Tomomi MASAKI<sup>2</sup>, and Naoki NISHIMURA<sup>2</sup>

**Abstract:** Our opening curriculum course, “Inquiry activity IIA” started in 2016, entered the second year. This time, we limited the number of participant students to 40 by lottery, in order to secure their safety during the canoe training; thus, our headquarters’ correspondence became much reliable during the practical training. As a result, the satisfaction level of the participant students was greatly improved in comparison with the results in 2016. In particular, as in 2016, it was also noted that the course contributed to the improvement of human relations among the participants.

### I. はじめに

2016年における岡山理科大学の教育学部新設に伴い、教育学部の選択必修科目である探究活動IIAも今年で2年目を迎えた。昨年度の90名を超える応募者の受け入れは、多くの学生にとって高い評価となった(山下ほか 2017)反面、安全面等の確保は緊急の課題ともなった、そこで今年度から受講制限を設け、グループ数も2016年の半分の8グループにするという新たな試みにより、安全面の確保と実習内容の充実を図った。今年度と2016年のアンケート調査の結果を比較しながらカヌー実習に関する新たな試みの成果を考察し、報告する。

### II. カヌー実習時の実際

カヌー実習は探究活動IIA(教育学部1年次開講選択必修1単位)の一部である。カヌー実習時の、より安全な運営面での確保から2017年4月上旬に受講制限があることを学生に周知したところ、それでも定員40名に対し72名の学生が受講を希望した。抽選結果は、6月上旬に厳正な抽選をもとに行い、公表した。

2017年のカヌー実習の主な改善点は次の2つである。

①受講生を40名に限定し、2016年度の4つのローテーショングループから2つに変更した。これによって個人の受講時間が2016年度の2倍に増し、受講内容を充実させた。

②受講制限に伴い、教員配置を今年度から本部に1人の確保が可能になり、緊急事態への備えを向

上させた。

### 1. 授業実施全日程およびカヌー実習当日の日程(( )は担当者)

#### (1) 授業実施全日程

- 第1回 オリエンテーション(山下)
- 第2回 旭川の地理的な解説と旭川に生息する軟体動物(貝類)の解説および実習(太田・山下)
- 第3回 カヌー実習の事前指導I
- 第4回 カヌー実習の事前指導II  
(本谷氏・北原氏・山下)
- 第5回 実習地の状況確認と下見I
- 第6回 実習地の状況確認と下見II
- 第7回 実習地の状況確認と下見III  
(本谷氏・北原氏・太田・山下)
- 第8回 カヌー実習および貝類の観察実習I
- 第9回 カヌー実習および貝類の観察実習II
- 第10回 カヌー実習および貝類の観察実習III
- 第11回 カヌー実習および貝類の観察実習IV
- 第12回 カヌー実習および貝類の観察実習V  
(京橋カヌースクール・岡山河川事務所・太田・山下)
- 第13回 プレゼンテーション準備I(山下)
- 第14回 プレゼンテーション準備II(山下)
- 第15回 プレゼンテーションとまとめ(山下)

#### (2) カヌー実習の日程(第8回～第12回)

2017年9月24日(土) 8時00分～17時00分  
8:00 現地集合・準備

- 1. 〒700-0005岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学教育学部 Faculty of Education, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.
- 2. 〒700-0005岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学自然フィールドワークセンター Nature Fieldwork Center, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.



図1. カヌーおよび貝類観察実習地(岡山市中区旭川左岸明星堰).



図2. カヌーおよび貝類観察実習地(空中写真).



図3. カヌー実習前の点呼の様子.



図4. カヌー実習の様子.

8:30 朝礼・準備運動

9:00 Aグループ(5人4班20名)カヌー実習,  
Bグループ(5人4班20名)貝類観察・旭川の  
歴史講話

12:00 休憩

13:00 Aグループ: 貝類観察・旭川の歴史講話,  
Bグループ: カヌー実習

16:00 カヌー駅伝

17:00 カヌー駅伝の表彰および閉会式

実施場所は旭川左岸明星堰およびその周辺(図1,  
図2). 図3・図4はカヌー実習中の様子.

### III. 実習後の結果と考察

本講義終了後, 受講生(N=33)にアンケート調査を実施し, 2016年での結果と比較した. 調査方法は5段階評定尺度による選択式と自由記述式を織り交ぜ, 7問を15分をかけて行った.

まず図5は本講義の満足度を5段階評価にした2016年と2017年の比較である. 2016年度の「全然」

「あまり」「ふつう」といった評価は2017年にはなく, 「やや」の評価も16%減少しているが, その分「とても」の評価が23%増していることがわかる. これがカヌー実習時の改善点が影響しているかどうかは不明だが, 学生の満足度が向上していることは本講義が一定の成果を出していると評価できる. さらに学生の満足度をより具体的な数量として知るために, 講義受講前の期待値を50として講義後どの程度の満足値が得られたかを尋ねた. その得られた結果が図6である. これによると講義前の期待値の2倍前後に集中していることがわかる. 受講生の中の3人は200を遙かに超える数字を提示した学生もいたが, 集計の都合上200として扱った. 講義前の期待値の平均値( $50 \pm 0.0$ )に対し, 講義後の満足値平均値は( $95.3 \pm 40.4$ )となり, 概ね期待以上の成果が得られたと考えられる.

次に, 「この講義で得られた最も大きなもの」は

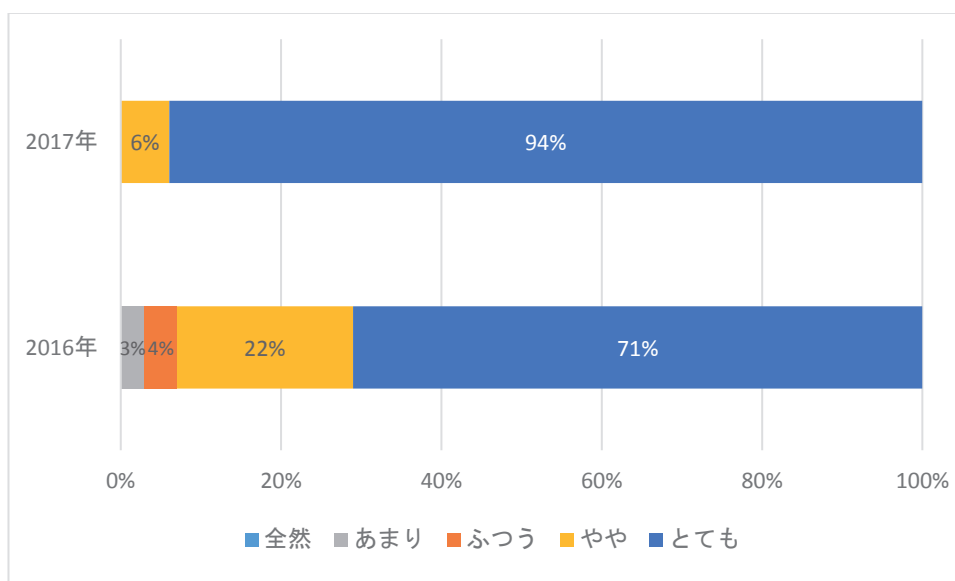


図5. 講義の満足度の5段階評価(2016年と2017年の比較).

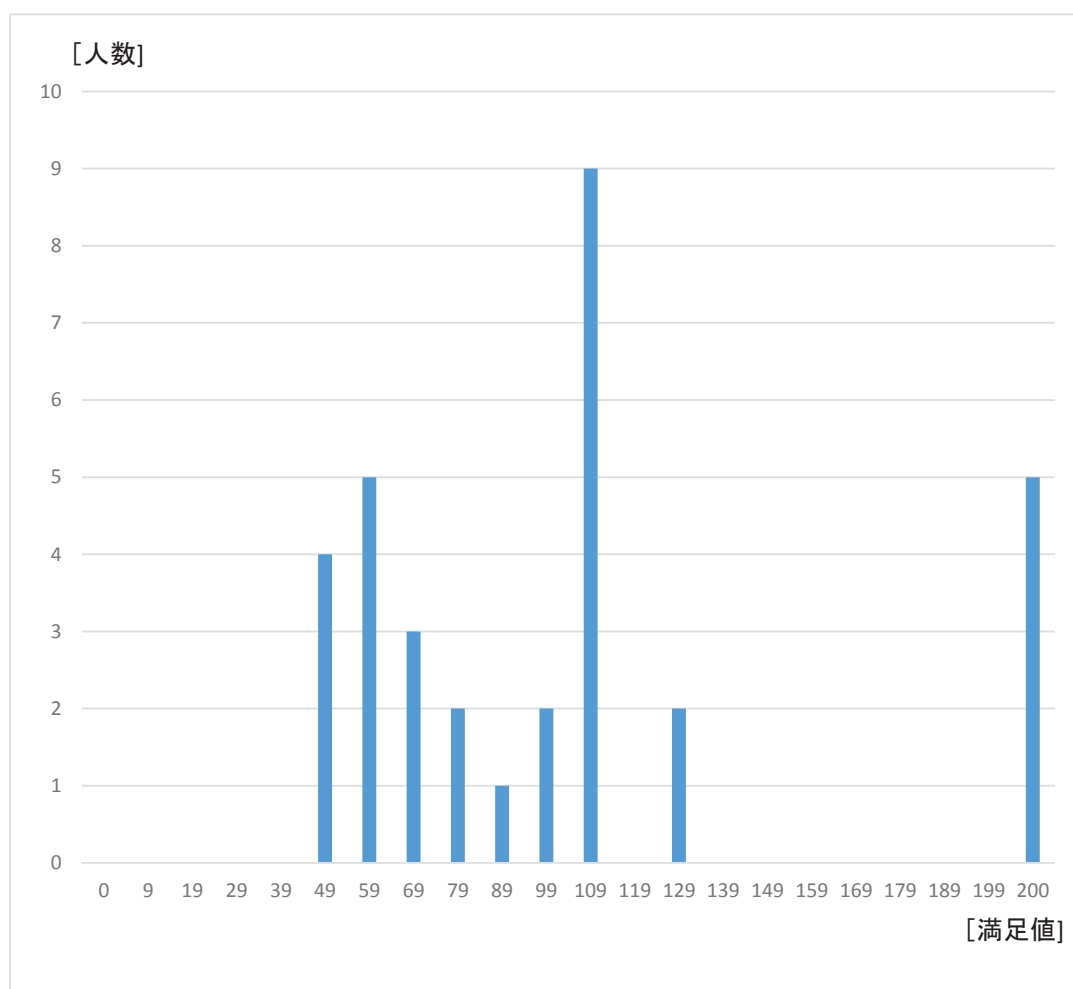


図6. 授業前の実習への期待値50に対する授業後の満足値ヒストグラム(満足値201以上は200とした).



何かを尋ねた結果が図7である。2017年の結果では学生の過半数が「友情」と答えていた。この結果は、2016年での報告(山下ほか 2017)でも触れているように、この講義及び実習が人間関係の改善に大きく貢献していることがうかがえる。2016年からグループ編成は極力、学科やクラス、男女等偏らないように配慮した編成作業を行っているため、新しい人間関係が構築されているものと推察している。

来年度の改善のための質問として「この講義の不满の内容」について尋ねたグラフが図8である。このグラフから、2016年よりも大幅に増した1人あたりのカヌー実習の時間ではあったが、それでも「短い」と感じる学生が少なからず存在していることがわかる。これは、学生にとってカヌー実習の技術習得がそれほど大きな抵抗になっておらず、個に応じた大変受け入れられやすい内容であると解釈することもできる。同様に十分なプレゼンテーション(図9)のための準備時間確保も今後の問題としなければならない。

最後に、学生に自由記述で感想を求めたところ、様々な角度からの意見が得られたので次にあげた。この中には、人間関係の深まりやカヌーに対する思いなどが生の声で語られており、学生の意識がこももである。

○すごく楽しかったし、フィールドワークを十分に学び、堪能できました。自然とふれあう楽しさとか普段関わることがない人と友達になれたこととか、たくさん自分にプラスになることばかり吸収できて本当に良かったです。児童の前で指導する立場になったとき、フィールドに出る機会が必ずありますが、そのとき役立つことを最後のプレゼンテーションで学ぶことができたと思います。優勝などの結果以上に心に残る一生の経験ができて良かったです。先生方、ありがとうございました。

○探究活動IIA(カヌー実習)みたいな野外活動を通して大切なことを学べるような講義をその他にも開講して欲しいです。

○この講義はカヌーをして終わりなのかと思っていましたが、あまり知らない人と話すことができたり、プレゼンテーションで考察したり、協力して準備することで団結が深まったりと良いことだらけでした。楽しかったです。ありがとうございました。

○本当にカヌー学習は楽しくそして得た物がとても多かったです。普通では体験できない物だったからとても心配だったけど先生方のサポートにより「全員無事」で終わることができて良かった。カヌーも楽しかったけど自分が住む街の旭川や百間川を知ることができて良かった。中等教育学科の人ともたくさん仲良くなれて良かったです。ありがとうございました。

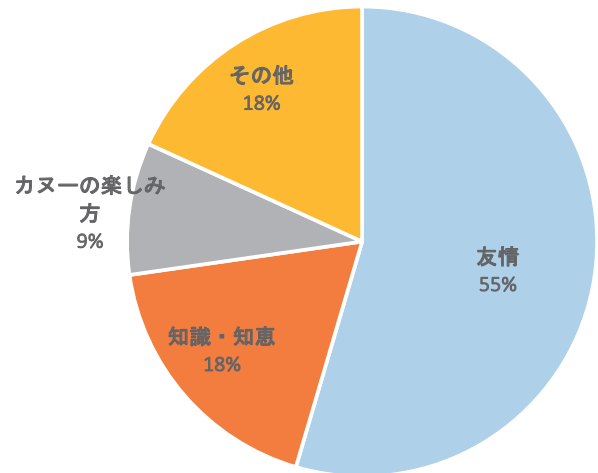


図7. 講義で得られた最も大きいもの。

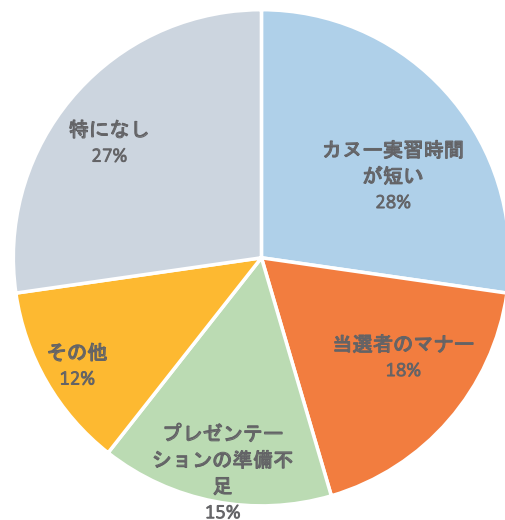


図8. 講義への不满の内容と割合。



図9. 実習後のプレゼンテーションの様子。

○とにかく楽しかった講義でした！カヌーを通して人見知りの私にもたくさんの人と話し、笑えました。発表の時、皆同じ学習をしたのに感じ方や伝え方が全然違って、どのような角度から見るかによっ



図10. 読売新聞朝刊2017年9月26日付岡山版。

て内容が異なることを実感しました。何より、発表しているとき、それぞれの班の工夫があつて、楽しそうに発表していたので、聞いている方も楽しくなりました。こんなに聞く側に興味を持たせる授業ができればどんなによいだろうと思います。カヌーという貴重な体験をさせてもらって本当に良かったです。学んだことをこれからの生活に生かしたいと思っています。ありがとうございました。

○とても楽しく学ぶことができたし、楽しいだけで終わらずに、教師になってから必要であろうことがたくさん学べてよかった。最後のプレゼンテーションでは理解が深まったし、この学習で学んだことを再確認できて良かった。また、普段しゃべらない友達と話すきっかけになったし、その後も気軽に話す仲になりました。

○今までカヌーに乗ったことはなく、不安に思ったことがいくらかあったけど、無事にやり遂げることができてよかった。チームで行動することの難しさ、大切さはいやと言うほどわかっているつもりだったけど、今回の実習を通して改めて感じる事ができた。大学生活の良い思い出になりました。ありがとうございました。

○この講義がなければカヌーに乗ることなどおそらく無かったと思う。本当にいい経験ができた。また、生態系について興味が湧き、調べて発表する機会があったこと！この講義がもう受けられないというのは少し残念です。今回の講義、ありがとうございました。

○本当にとても楽しかったです。抽選で通って本当に良かったと思います。落ちた人の分までしっかり、学び、楽しめたとも居ます。この大学ならではの貴重な経験を生かし、これからの大学人生に生かしていきたいです。

○私はこのカヌー実習で初等教育学科だけでなく

いつも関わらない違う学科の人や違う学年の人と交流できたことがとても良かった。また、この授業で教員になってからどんなことに気をつけて指導すればいいのか、どんな準備が必要かなどの視点を学べたことがとてもいい経験になった。自分が子供に教える際には、失敗でもできなかったことでも、何でも経験しておくことで話すことができるので、このようなあまりできない体験ができて嬉しかった。次はSAでカヌーに関わりたい。

○ただただ、満足だった。カヌーも初めてでとても楽しかったし、何より同じ学科でもそこまで関わりがなかった友達とカヌーを通して仲良くなったことに本当に感謝している。やっぱりカヌー駅伝は続けて欲しい。順位もいいけど協力して、友情が芽生えるからとてもいい経験になる！本当にありがとうございました。

今回、読売新聞の取材があり、実習終了後の2017年9月26日朝刊に掲載された(図10)。

来年度はこれらの結果をさらなる改善を試みるつもりであり、例えばSA(Student-Assistent)の導入による安全面での確保や、十分な準備ができる日程調整などを予定している。今後ともこの講義および実習で学生の様々な動機付けに貢献できたらと願う次第である。

#### IV. 謝辞

本授業において、本谷光円氏、北原久義氏をはじめとする京橋カヌースクールの方々、国土交通省岡山河川事務所所長三戸雅文氏、同調査設計課課長柴山慶行氏をはじめとする国土交通省岡山河川事務所の方々、岡山市中消防署の方々には事前調査から事後に至るまで大変お世話になった。ここに心から感謝申し上げる。

## V. 引用文献

山下浩之・太田 謙・松尾太郎・正木智美・西村直樹  
(2017). *Naturalitae* 21: 69-76.

## VI. 要約

2016年から始まった教育学部の開講科目「探究活動IIA」は2年目を迎えた。今回は抽選により受講生

を40名に限定し、受講生のカヌー実習時における安全確保を重点にしたことに加え、本部の対応が実習中に確実にとれるように改善を行った。その結果、学生の本講義に対する満足度も2016年と比較して大きく改善された。特に2016年同様、2017年も人間関係の改善に貢献していることがわかった。

(2017年12月14日受理)